

平成 25 年 8 月 吉日

各 位

大塚アグリテクノ株式会社

除草剤「カリュードジャンボ」の新規登録認可のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました除草剤のカリュードジャンボの農薬登録が平成 25 年 8 月 28 日付けにて認可されましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名 : カリュードジャンボ (第 23320 号)

有効成分・% : ピラクロニル・3.6%、ベンゾビスクロン・4.0%、ベンゾフェナップ・14.5%

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水 稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ (北海道、東北) ミズガヤツリ (北海道を除く) ウリカワ ヒルムシロ アオミドロ・藻類 による表層はく離 (北海道、近畿・ 中国・四国)	移植後 5 日～ ノビエ 2.5 葉 期 ただし、移植後 30 日まで	壤土～ 埴土	小包装 (ハック) 10 個 (500g) /10a	1 回	水田に 小包装 (ハック) のまま 投げ入 れる	全域 (関東・ 東山・東海を 除く) の普通 期及び早期 栽培地帯
	関東・東山・ 東海の普通 期及び早期 栽培地帯						

ピラクロニルを 含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを 含む 農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを 含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

〔使用上の注意事項〕

- (1) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2. 5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ（東北は始期まで）では2葉期まで、ヒルムシロでは発生期までアオミドロ・藻類による表層はく離では発生前が本剤の散布適期である。
- (2) 散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つこと。
本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (3) 本剤は小包装（パック）のまま、10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (4) 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるので使用を避けること。
- (5) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- (6) 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田（減水深2cm/日以上）では、薬害を生ずる恐れがあるので使用しないこと。
- (7) 田植え前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、完全に防除してから使用すること。
- (8) 著しい降雨が予想される場合には除草効果が低下する恐れがあるので散布を控えること。
- (9) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (10) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- (11) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (12) 空き袋等は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (13) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (15) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
 - ①眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - ②かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (16) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (17) 散布後は水管理に注意すること。
- (18) 空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[貯蔵上の注意事項]

- (1) 水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。
- (2) 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

以上